

第1章 町田市下水道ビジョンとは

1. 下水道ビジョンの目的

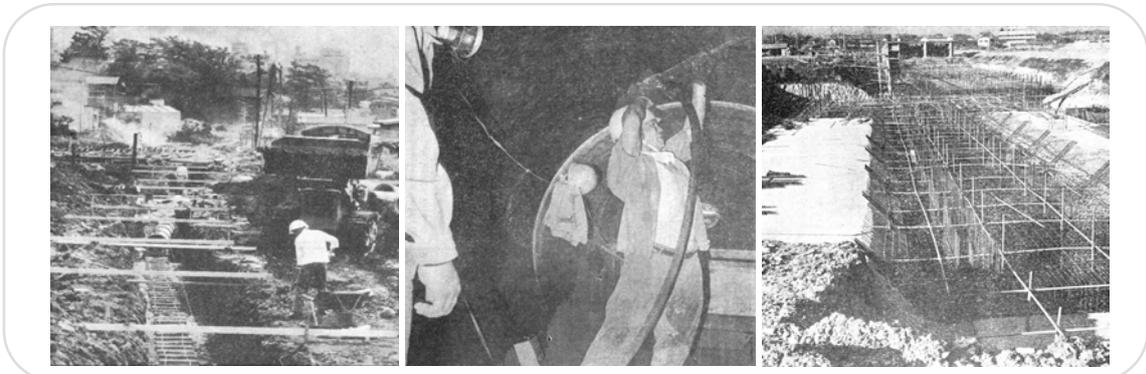
町田市では、主に住環境の改善と河川等の水質向上を目的に、1964 年度に*下水道事業に着手し、2013 年度には*市街化区域の污水管整備が概ね完了する予定です。

污水管整備に伴いこれまで伸び続けていた下水道使用料も、節水意識の高まり、節水機器やボトル水の普及等により伸びは鈍化傾向にあり、コストの削減、事業の選択、様々な増収策の模索など、効率的で健全な下水道経営に方針転換する必要があります。

このような状況の中、事業費の大きな下水処理場の*改築更新時期を間近に迎え、その将来構想について見極めが必要な時期にきています。

このほかにも、都市化の進展や多発する*ゲリラ豪雨等により発生する浸水被害への対策、老朽化する施設の適切な維持管理、大規模地震への備え、地球温暖化対策など、多くの課題が山積しており、今後の下水道事業のあり方について、長期的な視点に立った方向性を示すことが求められています。

本計画は、『今後の下水道のあり方について長期的な視点に立った基本的な方針や施策の方向性を示し、市民の下水道事業への理解を深め、協力を得ながら着実に下水道の役割を果たすこと』を目的に策定するものです。



污水整備が本格化した 1970 年代の工事の様子
(左と中央の写真は污水管工事の様子、右は工事中の成瀬クリーンセンター)

〔下水道の役割〕

- 住環境の改善
トイレの水洗化や污水の速やかな排除により、快適な住環境づくりに資する。
- *公共用水域の水質保全
污水を下水処理場で処理し、河川や海の水質向上に寄与する。
- 浸水の防除
雨水を速やかに河川に流し、家屋の浸水を防いで生命や財産を守る。

〔社会状況の変化〕

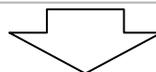
- ・低成長社会の到来
- ・人口減少、少子高齢社会の進展
- ・事業の透明性の確保、効率化への要求の高まり
- ・住民の行政への関心の高まり
- ・資源・エネルギー問題、地球温暖化問題の深刻化

〔下水道を取り巻く状況の変化〕

- ・節水型社会の到来（節水機器、ボトル水の普及等）
- ・河川や海の水質向上への要請
- ・老朽化する下水道施設の増加
- ・下水道施設の増加に伴う維持管理コストの増大
- ・ゲリラ豪雨の多発
- ・大規模地震発生の恐れ
- ・潤いのある水辺空間への関心の高まり

〔町田市下水道の課題〕

- ・厳しいことが予想される下水道財政の見通し
- ・市街化区域内に残る污水管未整備箇所の解消
- ・*市街化調整区域の未対策汚水の解消
- ・事業費の大きな下水処理場の更新とその最適化
- ・河川や海の水質改善を目指した処理水質向上の要請
- ・雨水整備の遅れ
- ・河川整備の遅れによる影響
- ・整備段階から維持管理段階への移行
- ・未耐震化施設の解消
- ・環境負荷軽減への対応
- ・下水道事業に関する情報発信の不足



〔ビジョン策定の必要性〕

- 市街化区域の污水管整備が概ね完了した後の下水道事業の方向性を定める必要がある。
- 事業優先の考え方から経営の効率化・安定化に方針転換するため、コストの削減、事業の選択、様々な増収策の模索等を行う必要がある。
- 事業費の大きな下水処理場の改築更新時期を迎え、将来構想について見極めが必要となっている。
- 「*公共下水道事業評価委員会」や「*包括外部監査」からの指摘を踏まえ、下水道事業の方向性を明らかにする必要がある。

図 1 計画策定の必要性

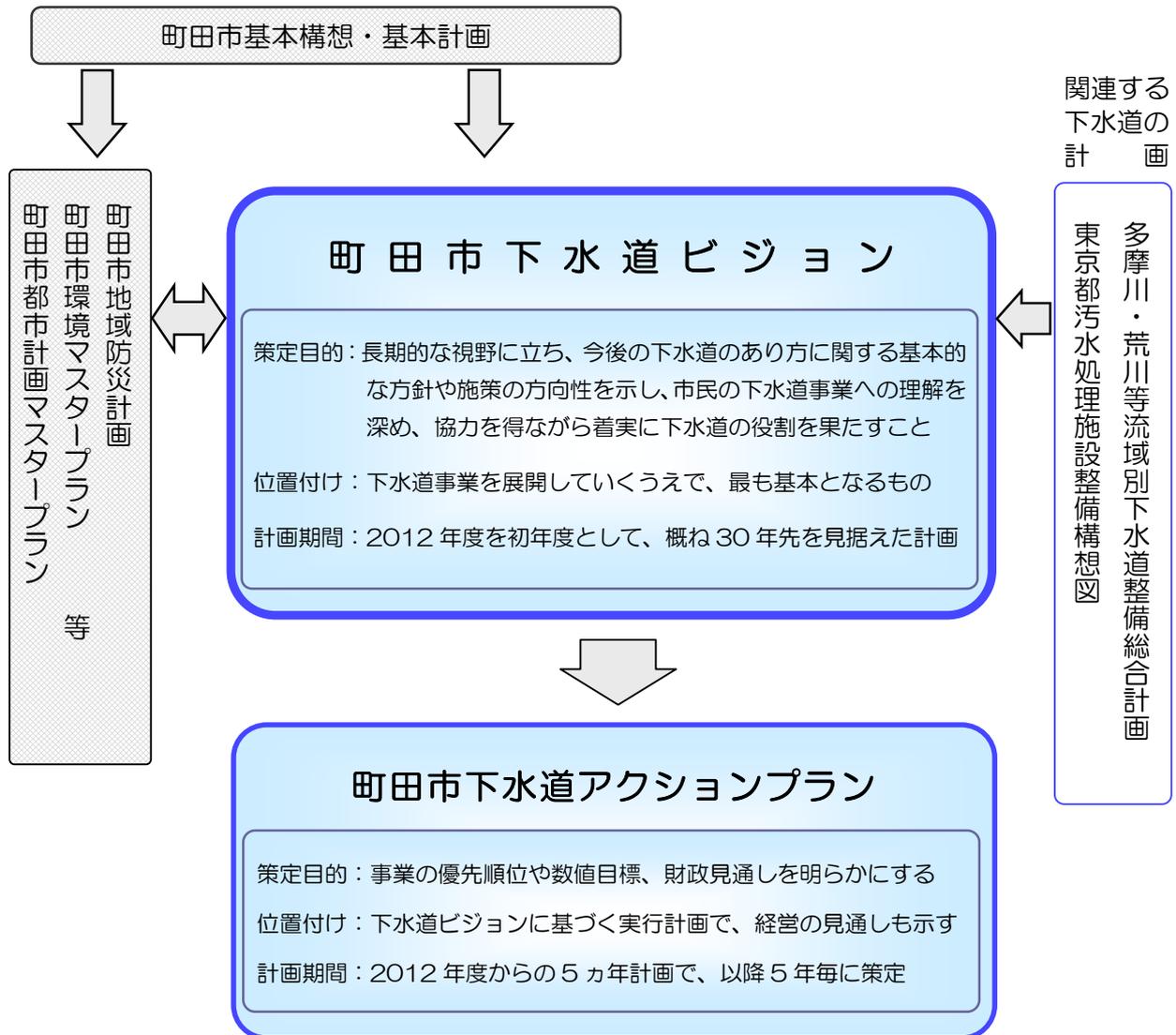


図 2 下水道ビジョンと関連計画の位置付け